

〈コラム〉

最終講義を終えて

濱野 光之*

Kouji HAMANO*

平成27年3月6日に、毎年行われる定年退職教員の最終講義を終えました。このような機会を企画・運営して下さった教職員の方々に心から感謝申し上げます。

また在職中は理事長の小川秀興先生をはじめ、多くの先生方に大変お世話になりました。これまで大過なく勤め上げることができましたのも、皆様のお陰と厚く御礼申し上げます。

最終講義の内容は何をしようと考えた結果、学生時代を含め、43年間と長きにわたりお世話になった順天堂大学での数々の思い出を最終講義のテーマとさせていただきます。

昭和43年に順天堂大学体育学部の門を叩き、当時バレーボール部の部長であった公衆衛生学研究室の山本武彦先生、監督の川合武司先生との出会い、そして大学3年次には念願の1部優勝を果たし、山本先生、川合先生そして仲間たちと子供のように喜びあったことなど学生時代の良き思い出です。

大学卒業後には、現在のV・プレミアリーグにあたる住友軽金属という実業団のチームに所属し、他の選手と比べ、身長がさほど大きくない私がどうやって戦っていくか毎日考えながら練習に明け暮れました。その結果1972年、黒鷲旗全日本選手権で優

勝することができたのは現役時代の私の誇りでもあります。

そして縁あって山本先生から母校に戻ってこないかとのお話をいただき、昭和54年4月に体育学部助手として順天堂大学に戻り、山本部長、川合監督のもと、コーチとして指導者としての生活がスタートしました。川合先生にはバレーボール指導者として技術や戦術、そして指導者としてのリーダーシップを学ばせて頂きました。その中で昭和58年の全日本インカレで初優勝した時の喜びを昨日のことに思い出します。

平成5年にはユニバーシアードの男子コーチとしてチームの金メダルに携わることができたのも大きな経験となりました。本学では監督として平成12・13年で関東大学リーグ2連覇、部長として平成22年に28年ぶりの全日本インカレ優勝、そして最後の年となる昨年、女子部が1部昇格と指導者として大変恵まれた36年を過ごすことができました。

在職中は教育・研究活動、クラブ活動とともに、大学運営にも微力ながら携わることができました。

私の順天堂大学での43年間を振り返り最終講義とさせていただきます。これまで私を育て支えて頂いた多くの方々に感謝を申し上げます。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
Graduate School of Health and Sports Science Juntendo University